



# 静岡社会健康医学大学院大学

地域の健康と医療を支える研究成果

SHIZUOKA SPH  
**RESEARCH BOOK**

2026.5





## はじめに

静岡社会健康医学大学院大学（静岡SPH）では、地域の健康課題の解決と健康寿命の延伸を目指し、社会健康医学の視点から研究を進めています。疫学、医療統計、健康政策、医療・介護データ活用などの知見を結びつけ、研究成果を地域社会で実際に役立てる「社会実装」に取り組んでいます。

本冊子では、本学の教員・学生・研究協力者による研究成果を、できるだけわかりやすく紹介しました。研究成果を行政、医療・介護関係者、地域の皆さまと共有し、健康づくりや地域課題の解決、県民の皆さまへのヘルスコミュニケーションに活かすことで、健康行動の実践や行動変容につながることを期待しています。

研究成果を社会に還元するためには、地域の皆さま、行政機関、医療・介護・福祉の現場など、多くの方々との連携が欠かせません。日頃より本学の教育・研究活動にご理解とご協力を賜っております皆さまに心より感謝申し上げますとともに、本冊子が新たな対話や連携のきっかけとなれば幸いです。

令和8年5月  
静岡社会健康医学大学院大学  
学長 宮地良樹

# 地域の健康と医療を支える研究成果

## 見てわかる！論文・研究解説

4-11 ページ



本学所属の研究者が発表した学術論文などから8つの研究をピックアップし、図表やイラストでわかりやすく解説します

1

世界の乳がん検診が変わる？ 静岡SPHの研究者が中心メンバーの研究が世界の超一流医学雑誌に掲載！

2

特定健診(メタボ健診)を受けると糖尿病・高血圧は予防できる？  
- 日本全国約30万人を最大10年間追跡した大規模研究

3

小規模事業所における健康管理の課題  
- 健診実施確認や受診後フォローで行政との連携に期待

県指定研究

4

夜間トイレに起きる回数が多い夜ほど寝ている間の血圧が上昇  
- 地域住民を対象としたながはまコホートでの研究

5

やせていても安心できないー  
- 危険因子が重なると脳卒中・心臓病リスク上昇

SKDB研究

6

1年間で2-3kgの体重増減で  
介護や死亡リスクが最大1.5倍に

SKDB研究

7

健診質問票で「要介護になりやすい人」を判定するための  
点数表を開発

SKDB研究

8

咀嚼障害がある人への歯科受診効果  
- 自治体の取り組みをSKDBで裏付け

SKDB研究

**SKDB研究** : 静岡国保データベース(医療・健康ビッグデータ)を用いた研究

市町施策への反映

12-13 ページ



本学の研究成果の市町施策反映例をご紹介します

その他の研究のご紹介

14-15 ページ



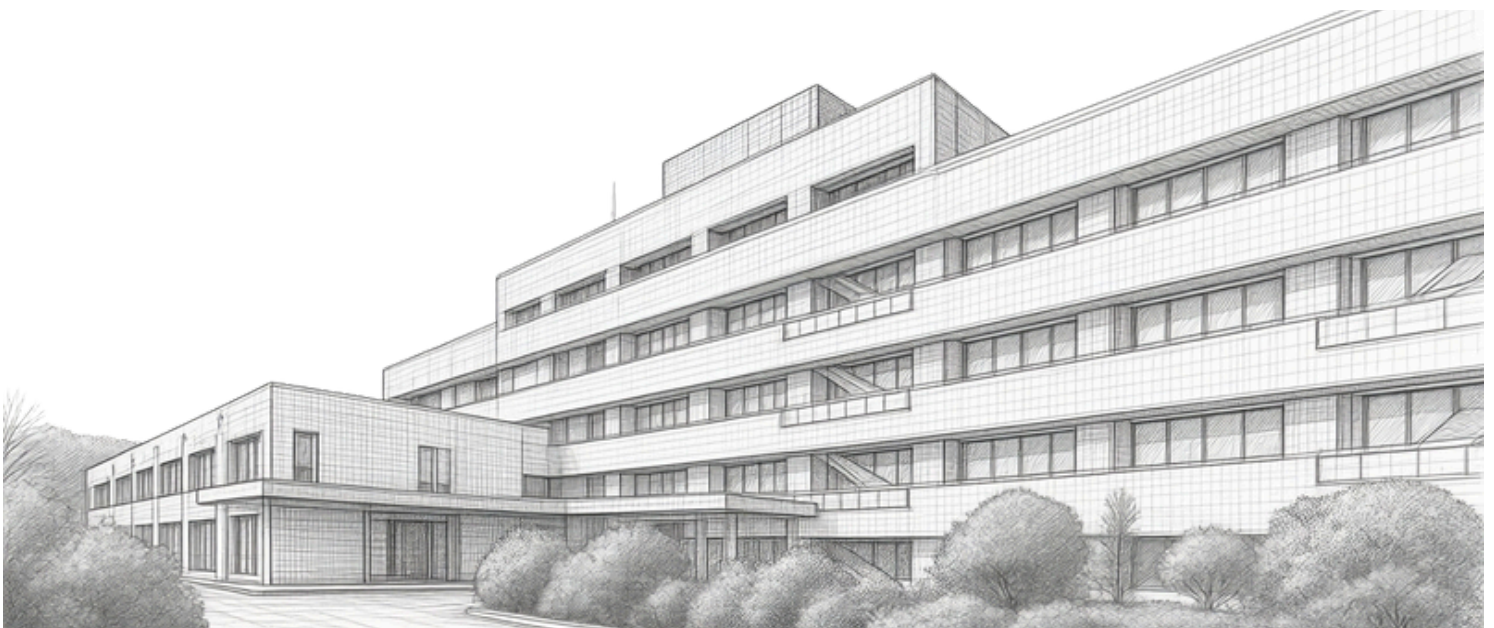
本学が取り組んでいる主な研究の一部を一覧でご紹介します

県内で活躍する学生・修了生のご紹介

16 ページ



県内で活躍する本学の学生・修了生をご紹介します





# 世界の乳がん検診が変わる？

静岡SPHの研究者が中心メンバーの研究が世界の超一流医学雑誌に掲載！



## ひとこと結論

マンモグラフィに超音波検査を組み合わせると、進行した乳がんを減らせることがわかりました



## どんな課題やギモンを解決しようとしたか

- 日本では乳がんが40代から増えます
- 40代は乳腺が高密度で、マンモグラフィで見つけにくいことがあります
- 超音波を追加することで、進行した状態で見つかる乳がんが少なくなるかを調べました

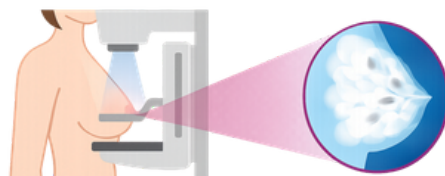
## 研究対象者

健康な日本人女性

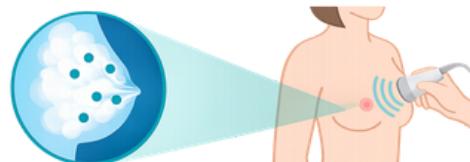
約 **73,000**



## マンモグラフィ単独



## マンモグラフィ+超音波検査



…2年間隔で2回受診後、10年以上長期追跡して比較…



乳がん全体の見つけ方に差はなく、進行した乳がんで見つかる人の割合に差がみられました

- 10年間で進行した乳がん(ステージ2以上)で見つかった人の割合は  
マンモグラフィ単独で**0.79%** 超音波を追加した集団で**0.64%** でした
- 全追跡期間では、進行した乳がんで見つかる割合が、  
超音波を追加した集団で約**17%低い**ことがわかりました



## 地域や社会への意義

- マンモグラフィに超音波検査を加えることで、長期的に進行した状態で見つかる乳がんが減ることを証明したのは世界で初めてであり、日本だけでなく世界の乳がん検診が変わる可能性があります
- 進行した状態で見つかる乳がんを減らせれば、本人の負担だけでなく、治療負担や医療費の軽減にもつながる可能性があります



## 研究の課題・展望

- 乳がん死亡そのものが減るかは、さらに追跡が必要です
- 超音波の追加による利益と負担を、今後も検討する必要があります

## 研究論文の情報

論文名 : Cumulative incidence of advanced breast cancer in women aged 40–49 years in the Japan Strategic Anti-cancer Randomised Trial (J-START) of adjunctive ultrasonography : a prespecified secondary analysis

掲載誌 : The Lancet (2026年発行)

著者名 : Narumi Harada-Shoji, Akihiko Suzuki, Takanori Ishida, Seiichiro Yamamoto, 他 (J-START investigators)



# 特定健診(メタボ健診)を受けると 糖尿病・高血圧は予防できる？



日本全国約30万人を最大10年間追跡した大規模研究



## ひとこと結論

特定健診(メタボ健診)を受けた人は、受けなかった人と比べて、  
糖尿病や高血圧を発症するリスクが約10%低いことがわかりました



## どんな課題やギモンを解決しようとしたか

- 2型糖尿病や高血圧などの生活習慣病は、大きな健康課題であり、医療費増加の要因にもなります
- 日本では2008年から生活習慣病を未然に防ぐために「特定健診(いわゆるメタボ健診)」が開始されました
- 大規模な医療データを用いて、特定健診による生活習慣病の予防効果を調べました

### 研究対象者

日本の働く世代

約 **30** 万人



### 特定健診受診者



**7.8** 万人

### 特定健診未受診者



**21.4** 万人



特定健診受診者 は、



投薬が必要な糖尿病・高血圧の発症のリスクが

**9.8% 低下** したことがわかりました



## 地域や社会への意義

- 特定健診は、その効果が期待される一方でどの程度の効果があるのかが長らくはっきりしませんでした。本研究により、生活習慣病の予防に役立つことを具体的な数値とともに明らかにしました
- 自治体や行政が住民に対して特定健診の受診を推奨するための政策や健康教育を行う上で、重要な情報となります



## 研究の課題・展望

- 対象者が企業に勤めている人とその家族であることから、その他の集団への当てはまりには注意が必要です
- 静岡県の国保の加入者で同じく有効性を検討し、2026年度中に論文投稿予定です

## 研究論文の情報

論文名 : Universal Health Checkups and Risk of Incident Diabetes and Hypertension  
 掲載誌 : JAMA Network Open (2024年発行)  
 著者名 : [Masato Takeuchi](#), [Tomohiro Shinozaki](#), [Koji Kawakami](#)



# 小規模事業所における健康管理の課題



## 健診実施確認や受診後フォローで行政との連携に期待

### 県委託研究 - 静岡県富士健康福祉センターとの協働調査 -



### ひとこと結論

50人未満の小規模事業所では、健診の実施確認や、健診後の受診勧奨・受診継続に課題があり、行政支援の活用が重要と考えられました



### どんな課題やギモンを解決しようとしたか

- ・ 富士市・富士宮市において、小規模事業所の健康づくり実態調査から約10年が経ち、健康経営の推進など支援環境は大きく変化しました
- ・ 従業員50人未満の小規模事業所における健康管理の実態と、働く人の受診状況や支援ニーズを調査しました（静岡県富士健康福祉センターとの協働）

### 調査対象



事業所調査

(50人未満の事業所)

**537** 件



従業者調査

(県内事業所で働く人)

**400** 人



### 健診の流れでみえた課題

1 定期検診を受けた



**64.3%**

(257人/400人)

2 異常を指摘された



**52.5%**

(135人/257人)

3 会社から再検査や治療を勧められた



**46.6%**

(63人/135人)

4 実際に受診した



**60.7%**

(82人/135人)

全員の健診受診を把握している事業所

**70.9%**

(376事業所/537事業所)

受診しなかった理由(135人中受診しなかった53名からの回答)

「自覚症状がなかった」



**40%**

「面倒だった」



**34%**

「多忙だった」



**25%**



### 地域や社会への意義

- ・ この研究は法令順守が難しい状況にある小規模事業所の実態を示したものです
- ・ 研究成果は行政の健康づくり支援や事業所向けリーフレット作成などに活用されます



### 研究の課題・展望

- ・ 健診で異常を指摘された人が、なぜ受診勧奨に応じても受診に至らないのかを、理由や属性ごとに詳しく分析し、施策につなげることが課題です

### 研究の情報

委託研究課題名：「事業所における健康づくりに関する研究」(課題番号県指定2024-3)

研究代表者：八田太一



# 夜間トイレに起きる回数が多い夜ほど 寝ている間の血圧が上昇



地域住民を対象とした‘ながはまコホート’での研究



## ひとこと結論

同じ人でも、夜中にトイレに起きる回数が多い夜ほど、  
寝ている間の血圧が高くなることがわかりました



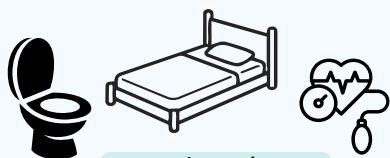
## どんな課題やギモンを解決しようとしたか

- 起きている時の血圧とは別に、寝ている間の血圧が高いことも脳卒中や心臓病の危険度を高めます
- 過去に、異なる人の比較において夜間の尿回数が多いほど睡眠時の血圧が高いことが明らかになっていました
- 同じ人でも尿回数が多い夜ほど睡眠時血圧が高いかどうかは分かっていませんでした

### 研究対象者

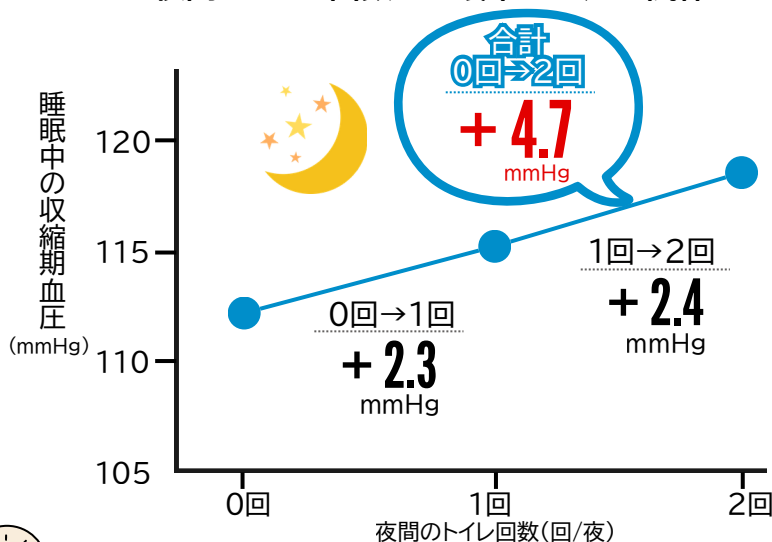
滋賀県長浜市住民

約 **2,500** 人



同じ人の中で、  
トイレ回数が違う夜どうしの  
血圧を比較

### 夜間のトイレ回数と睡眠中の血圧の関係



夜間のトイレ回数が増えると睡眠中の血圧が高かった



## 地域や社会への意義

- 夜間の排尿回数は誰でも簡単に記録できるため、睡眠時高血圧の可能性に気づく手がかりになります
- 食塩の摂りすぎは夜間血圧を高め、夜間尿回数を増やす可能性があるため、減塩指導でのきっかけ作りに活用できます



## 研究の課題・展望

- 服薬や飲酒の影響を考慮した検証が必要です
- 減塩や生活習慣の改善で、夜間尿回数と睡眠時血圧が下がるかどうかを検証する必要があります

### 研究論文の情報

論文名 : Intraindividual correlations between nocturnal urination frequency and sleep blood pressure: the Nagahama Study.

掲載誌 : Hypertension Research (2025年発行)

共著者名: Tabara Y, Matsumoto T, Murase K, et al.



やせていても安心できない—

## 危険因子が重なると脳卒中・心臓病リスク上昇



SKDB研究

静岡国保データベース(SKDB)を用いたビッグデータ研究



### ひとこと結論

メタボでなくても、血圧・脂質・血糖の異常が重なると、脳卒中や心臓病のリスクが高くなることが明らかになりました



### どんな課題やギモンを解決しようとしたか

- 日本では、内臓脂肪の蓄積に血圧、脂質、血糖の異常が加わるとメタボリックシンドロームに該当し、健診でも指導の対象となります
- しかし、肥満でない人で血圧・脂質・血糖の異常が重なった場合のリスクについては十分にはわかっていませんでした

### 研究対象者

静岡県民のうち  
特定健診を受けた40歳以上

約 **37** 万人



❗ 3つの危険因子(高血圧・脂質異常・高血糖)と脳卒中/冠動脈疾患リスクの関連

### 危険因子(高血圧・脂質異常・高血糖)の数と脳卒中・冠動脈疾患リスク (リスク指標として、危険因子0個を1としたハザード比を算出)

		0個	→ 1個	→ 2個	→ 3個
男性(65歳未満)	肥満なし	1 (基準)	2.2倍	2.6倍	3.9倍
	冠動脈疾患	1 (基準)	1.4倍	1.7倍	2.1倍
女性(65歳未満)	肥満なし	1 (基準)	1.5倍	1.6倍	2.3倍
	冠動脈疾患	1 (基準)	1.8倍	2.4倍	4.1倍



肥満でない場合も  
危険因子の数が増えるほどリスクが上昇



### 地域や社会への意義

- 特定健診では、腹囲や体重が基準以下だと生活習慣病があっても保健指導の対象になりません
- しかし、この研究より、肥満でなくても予防支援が必要な人が多いことが明らかになりました
- 地域の予防対策では、血圧・脂質・血糖の異常がある非肥満者を見逃さないことが重要です



### 研究の課題・展望

- メタボかどうかに関わらず、リスクの高い人を予防介入や医療につなげるしくみづくりが必要です

### 研究論文の情報

論文名 : Association between Metabolic Syndrome and Cardiovascular Events in a Japanese Population with and without Obesity: The Shizuoka Kokuho Database Study  
 掲載誌 : Journal of Atherosclerosis and Thrombosis (2025年発行)  
 著者名 : Tabara Y, Shoji-Asahina A, Sato Y.



# 1年間で2-3kgの体重増減で 介護や死亡リスクが最大1.5倍に



SKDB研究

静岡国保データベース(SKDB)を用いたビッグデータ研究



## ひとこと結論

高齢者では、過去1年間に体重が2kg以上減る、または3kg以上増えると、その後の要介護認定や死亡リスクが高くなっていました



## どんな課題やギモンを解決しようとしたか

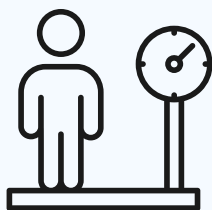
- 高齢者では、やせ過ぎが要介護や死亡リスクを高めることが知られています
- 過去1年間の体重変化が要介護や死亡に関係するかどうかは分かっていませんでした

### — 1年間の体重変化と要介護・総死亡の関連 — (リスク指標として、体重変化なしを1としたハザード比を算出)

#### 研究対象者

静岡県民のうち2年連続で  
特定健診を受けた65歳以上

約 **11** 万人



1年目と2年目の体重変化と  
要介護認定・総死亡との関連



**2** kg以上減少



**3** kg以上増加

**65-74** 歳



要介護リスク  
**1.5** 倍



要介護リスク  
**1.5** 倍



死亡リスク  
**1.4** 倍



死亡リスク  
**1.5** 倍

**75-90** 歳



要介護リスク  
**1.3** 倍



要介護リスク  
**1.3** 倍



死亡リスク  
**1.3** 倍



死亡リスク  
**1.3** 倍



**2kg以上の減少、3kg以上の増加で要介護認定や総死亡のリスクが上昇**



## 地域や社会への意義

- 高齢者の健康管理では、現在の体重だけでなく、過去1年間の体重変化に注意することで、早期の予防介入が必要な人を見分ける手がかりになります



## 研究の課題・展望

- 体重変化の理由に加え、要介護や死亡の原因について詳細な検討が必要です

## 研究論文の情報

論文名 : Association of Body Weight Changes Over 1 Year With the Incidence of Functional Disability and All-Cause Mortality in Older Adults: The Shizuoka Kokuho Database Study.  
 掲載誌 : Journal of the American Medical Directors Association (2025年発行)  
 著者名 : Tabara Y, Shoji-Asahina A, Sato Y.



# 健診質問票で「要介護になりやすい人」を判定するための点数表を開発



SKDB研究

静岡国保データベース(SKDB)を用いたビッグデータ研究



## ひとこと結論

75歳以上の健診で答える15項目の質問のうち、9項目といくつかの基本情報を組み合わせることで、2年以内の要介護認定リスクを判定できる可能性が示されました



## どんな課題やギモンを解決しようとしたか

- ・ 要介護状態になることを防ぐことは、生活の質を高め社会的負担を減らすために大切です
- ・ 2020年以降、75歳以上の健診の質問票が導入されましたが、この質問票が将来の要介護認定をどの程度予測できるかははっきりしていませんでした

### 研究対象者

静岡県民のうち  
後期高齢者健診を受けた方

約 **11** 万人



問診票項目や基本情報から  
要介護2以上認定リスクの  
点数表を作成

### 要介護スコア点数表(問診票項目のみ抜粋)

	もの忘れを指摘される	6点
	今日の日付がわからない	5点
	健康状態が悪い	4点
	過去1年で転倒した	3点
	週1回以上外出しない	3点
	6か月で2kg以上やせた	2点
	以前より歩くのが遅くなった	2点
	週1回以上健康のために歩かない	2点

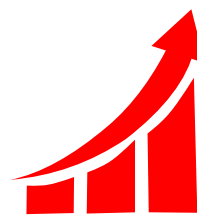
年齢、BMIなど10項目を  
合わせた点数表で

### 合計点

**40** 点以上で

2年以内の  
要介護2以上認定リスクが

**46%**以上



## 地域や社会への意義

- ・ 健診時点で「今後、介護が必要になりやすい人」を早めに見つけれれば、運動、転倒予防、認知機能低下への対応、生活支援などの予防的介入につなげやすくなります



## 研究の課題・展望

- ・ より長期の追跡、認知症・脳卒中・フレイル・筋骨格系疾患など原因別の解析、社会経済状況を含めた評価が求められます

## 研究論文の情報

論文名 : Prognostic significance of the Questionnaire for Medical Checkup of Old-Old for the incidence of functional disability: The Shizuoka Kokuho Database study.  
 掲載誌 : Geriatrics & Gerontology International (2025年発行)  
 著者名 : [Tabara Y.](#), [Shoji-Asahina A.](#), [Akasaka H.](#), [Sugimoto K.](#), [Sato Y.](#)



# そ 咀嚼障害がある人への歯科受診勧奨 -自治体の取り組みをSKDBで裏付け



SKDB研究

静岡国保データベース(SKDB)を用いたビッグデータ研究



## ひとこと結論

そ 咀嚼障害があると答えた人のうち、  
歯科を受診した人の方が受診しなかった人に比べて、  
改善する割合が高いことがわかりました



## どんな課題やギモンを解決しようとしたか

- 特定健診では2018年度から「食事をかんで食べる時の状態(咀嚼状態)」を尋ねる質問が追加されました
- 一部の自治体(静岡市など)では、咀嚼状態が悪いと答えた人に対して歯科受診勧奨を行っていますが、実際に効果があるかが不明でした

### 研究対象者

3年連続健診受診者のうち  
咀嚼障害ありと答えた方  
約 **6,800**人



### 3年目 咀嚼状態の改善割合の比較

#### 歯科受診あり

1,803人

**34.7%**

625人が改善

改善しやすさ  
**1.26倍**  
高い

(年齢・性別・全身状態  
などを考慮)

#### 歯科受診なし

5,026人

**27.5%**

1,384人が改善



### 歯科受診でかみにくさが改善

自治体が行っていた  
歯科受診勧奨の取り組み効果を  
SKDBで裏付け



## 地域や社会への意義

- 特定健診の質問票と歯科レセプトを組み合わせ、歯科受診とその後の咀嚼状態改善との関連を大規模データで検討しました
- 特定健診で「かみにくい」と答えた人に歯科受診を勧めることが、地域住民の口腔機能改善につながる可能性があります



## 研究の課題・展望

- 現在歯数や歯周病の重症度など詳細な口腔情報を含めた検証が必要です

### 研究論文の情報

論文名 : 特定健診受診者における歯科受診と咀嚼状態の改善との関連:静岡県国保データベースを用いた後ろ向きコホート研究。  
掲載誌 : 口腔衛生学会誌 (2025年発行)  
著者名 : 佐藤洋子、安藤雄一、小畑充彦、種村崇

# ●●● 本学の研究成果を市町施策へとつなぎ、



## 特定健診・がん検診受診率向上および 生活習慣病予防のための研究

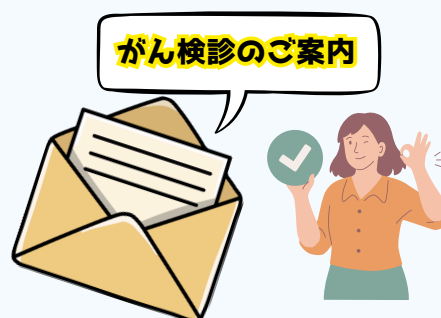
【研究代表者】 溝田友里 准教授

【概要】 ナッジ理論やソーシャルマーケティングなど行動科学の知見を活用し、市町のニーズに応じた特定健診・がん検診の受診勧奨資材などの開発とコンサルテーションを実施しています。

### 市町への主な還元・貢献

#### 1 NHK総合「あしたが変わるトリセツショー」と連携した がん検診受診プロジェクトを実施

- 令和6年度は全国47都道府県284市町村が参加し、5つのがん検診について住民約150万人に、令和7年度は全国47都道府県262市町村が参加し、肺がん検診について住民約110万人に、それぞれ放送と連動したがん検診の個別通知の送付を行い、住民から多くの反響がありました
- 静岡県からは令和6年度に **24** 市町、令和7年度に **21** 市町が参加しました
- 富士市では、大腸がん検診の受診者が約 **1,061** 名増加し、その中から **13** 名の早期発見につながりました。
- R6年度において、受診者の増加により早期発見につながった方は **5** 名増加し、  
**3** 年間で約 **3,074** 万円(1人あたり3年間で615万円)の医療費削減効果が見込まれます。



#### 2 市町への個別支援を実施

- 令和5年度より、特定健診や特定保健指導、がん検診等の受診勧奨資材及び実施体制について、それぞれの市町の課題に応じた助言を行っています。
- 伊東市では、助言を資材に反映した結果、

受診券再発行依頼件数が令和6年度の約 **1.4** 倍となりました。





## 静岡多目的コホート研究事業 (しずおか研究)



しずおか研究ウェブサイト

【研究代表者】 田原康玄 教授

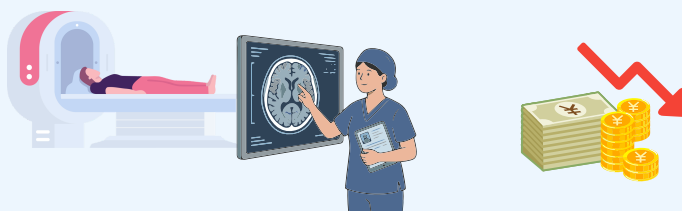
【概要】 県内各地域の住民を対象に健康調査を行い、疾病の原因解明と予防法の開発を目指す研究です。これまでに賀茂地域、袋井市、島田市で健康調査を実施しています。



### 市町への主な還元・貢献

1

- かもけん健診、ふくけん健診で実施した頭部MRIで、**要精密検査対象者 97名**が見つかりました。脳卒中を予防したことで**年間1億9,400万円**の医療費削減効果が見込まれます。



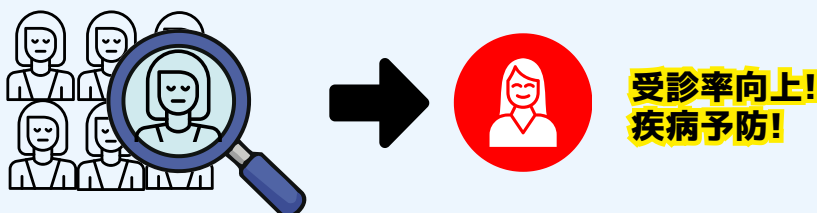
2

- ふくけん健診では、市が把握している健康課題である糖尿病に加え、**高血圧の割合が高い**ことが明らかとなりました。高血圧対策には減塩が必須です。家庭の調味料を減塩タイプに置き換えることで、無理なく血圧を下げるができるのか、**社会実験“しおがえ大作戦”**に袋井市とともに取り組んでいます。



3

- しまけん健診受診者のうち、**約15%**はこれまで市の健診を受けていなかった方でした。疾病リスクが高い健診無関心層からの受診者掘り起こしを通じて、島田市の疾病予防と特定健診受診率の向上に貢献しました。





入院高齢者の高リスク要因として、男性、高齢、神経疾患、認知症などが明らかになりました。 ■ SKDB研究

Hashizume H, Matsuura A, Miyachi Y. The Shizuoka Study of a Population-Based Retrospective Cohort for the Evaluation of Risk of Pressure Injury in the Elderly. *Adv Wound Care* (New Rochelle). 2025 Mar 17. doi: 10.1089/wound.2024.0256. Epub ahead of print. PMID: 40097204.



客観的に測定した咀嚼力の低下はサルコペニアと関連することが明らかになりました。 ■ しずおか研究

Nagao-Sato S, Kushida O, Kurita Y, Ozaki E, Kuriyama N, Kato M, Akamatsu R, Goda T, Tabara Y. Sex Differences in the Association Between Masticatory Function and Sarcopenia Components: The Shizuoka Study. *Nutrients*. 2025 Mar 10;17(6):968. doi: 10.3390/nu17060968. PMID: 40289993; PMCID: PMC11944964.



足底感覚の低下は高齢者のバランスと下肢運動機能と関連することが明らかになりました。 ■ しずおか研究

Kato M, Kito K, Nakano S, Nakano W, Kurita Y, Tanaka Y, Kuriyama N, Seto K, Ozaki E, Tabara Y. Plantar cutaneous sensation is independently associated with postural balance and lower limb motor function in older adults: the Shizuoka study. *Eur Geriatr Med*. 2025 Apr;16(2):625-634. doi: 10.1007/s41999-024-01141-4. Epub 2025 Jan 8. PMID: 39775748.



がん骨転移に対する緩和的放射線治療の県内の実施について、地域レベルよりも施設レベルでの格差が顕著であることが明らかになりました。

■ SKDB研究

Miyasaka Y, Sato Y, Harada H, Nakamura K, Ohno T, Yamamoto S. Practice disparities in palliative radiation therapy for bone metastases: insights from the Shizuoka Kokuho database study. *Jpn J Radiol*. 2026 Jan 14. doi: 10.1007/s11604-025-01938-8. Epub ahead of print. PMID: 41533309.



糖尿病患者は、病状が進行するほど歯科受診率が下がる傾向にありました。透析導入前の糖尿病患者が歯科を受診すると、透析導入のリスクが下がる可能性があるかについて解析を進めています。 ■ SKDB研究

佐藤洋子. 口腔と全身の健康に関するエビデンス創出のための研究



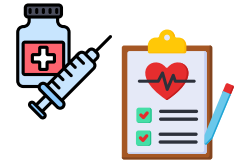
SKDB研究: 静岡国保データベースを用いた研究  
しずおか研究: 静岡多目的コホート研究事業



ナッジなどの行動科学の手法を活用し、**HPVワクチンや婦人科検診、骨粗鬆症検診の受診**を促すための資材や情報提供方法を開発・評価しています。

研究代表者: 溝田友里 准教授

女性の健康の包括的支援の推進に資する受診勧奨及び情報発信方法の開発と評価に関する研究—ナッジ等の行動科学を活用した受診勧奨—



袋井市民を対象に、**普段の調味料を減塩調味料に置き換える**ことで血圧が下がるかどうかを検証する研究を開始しました。現在、参加者を募集して準備を進めています。

研究代表者: 佐藤清香 講師

袋井市における減塩調味料の配布による減塩にかかわる食行動および降圧効果の検証のための介入研究



都道府県レベルで行われる地域ケア会議の運営状況を調査し、PDCAサイクルなどの手法を用いて、**施策やサービスがより円滑に県民に提供**されるような仕組みづくりを検討しています。

研究代表者: 高山智子 教授

地域包括ケアシステムの広域調整会議の場の機能的な運営と評価に関する探索的研究



静岡県民の健康寿命の維持・延伸に向け、市町ごとの**栄養摂取量や生活習慣データを継続的に調査し、分析**しています(食と生活習慣チェック)。この結果は市町の健康増進計画や事業所の健康経営に活用されています。また、各市町で統一したデータを取得できる取り組みは、他県からも注目を集めています。

研究代表者: 山本精一郎 教授

健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリングの継続



「食と生活習慣チェック」サイト



# 県内で活躍する学生・修了生のご紹介



修士課程2023年修了  
博士課程2026年修了

あさひな あや  
**朝比奈 彩 さん**

静岡赤十字病院検査部  
副部長

[大学院での主な研究テーマ]  
SKDBを活用した高血圧や多血症の研究など



修士課程2023年修了  
博士課程2026年修了

うえき ちから  
**植木 力 さん**

順天堂大学医学部附属静岡病院  
心臓血管外科 准教授

[大学院での主な研究テーマ]  
B型大動脈解離の臨床成績と治療傾向など



修士課程2023年修了  
博士課程2023年入学

いちかわ よしかず  
**市川 義一 さん**

静岡赤十字病院  
副院長・産婦人科部長

[大学院での主な研究テーマ]  
子宮頸がん予防行動を促す手法の開発など



修士課程2025年修了

おか りつこ  
**岡 利津子 さん**

裾野市役所健康福祉部  
健康福祉部長兼福祉事務所長

[大学院での主な研究テーマ]  
定期的な歯科受診に関する因子の探索など



修士課程2024年修了

しおや ゆうみ  
**塩谷 祐実 さん**

富士市役所保健部健康政策課  
統括主幹(管理栄養士)

[大学院での主な研究テーマ]  
食と生活習慣チェック調査の研究など



修士課程2026年修了

つぼい かなこ  
**坪井 香奈子 さん**

榛原総合病院  
歯科口腔外科・医長

[大学院での主な研究テーマ]  
薬剤関連顎骨壊死発症のリスク因子の検索など



修士課程2026年修了

はやし ゆうこ  
**林 優子 さん**

静岡市葵区役所健康支援課  
副主幹(保健師)

[大学院での主な研究テーマ]  
3歳児就寝時刻と小学校1年時の肥満との関係 など



修士課程2024年入学

すずき けんいち  
**鈴木 健一 さん**

静岡県立こころの医療センター  
医療部長

[大学院での主な研究テーマ]  
統合失調症患者の入院治療と再入院の関係など

このほかにも、県内各地で活躍する修了生・学生がたくさんいます



静岡社会健康医学大学院大学ウェブサイト  
<https://s-sph.ac.jp>

入学案内、大学で行っている研究や活動などが紹介されています。



しずおか研究 | 静岡多目的コホート研究事業ウェブサイト  
<https://www.shizuoka-cohort.jp>

大学が静岡各地で実施しているコホート研究の最新情報が掲載されています。



静岡国保データベース(SKDB)サイト  
<https://skdb.s-sph.ac.jp>

大学が静岡県国保データベースを用いて行った研究成果が掲載されています。



食と生活習慣チェック(モニタリング研究)サイト  
<https://monitoring.s-sph.ac.jp>

大学が県・全市町と協力して行っているモニタリング調査のサイトです。  
あなたの食と生活習慣がチェックできますので、ぜひご回答ください。





製作編集：地域・産官学連携委員会  
担当：佐藤洋子 竹内正人 山本精一郎